



## 消化管

コード	検査項目 JLAC10コード	検体量(mL)	容器 (No.)	保存	所要 日数	実施料 判断区分	検査方法	基準値	備考	異常を示す主な疾患
5013	インスリン 4G010-0000-023-051	血清 0.3	1	冷蔵	1~3	106 生化II	CLIA	2.7~10.4 μU/mL	溶血検体は負誤差となります。	【高値】肥満症・妊娠・末端肥大症 クッシング症候群・甲状腺機能亢進症 肝疾患・インスリン自己免疫症候群 【低値】糖尿病・飢餓・弾性糖尿病 偽アルドステロン症・下垂体機能低下症
5014	C-ペプチド 4G020-0000-023-051 4G020-0000-004-051	血清 0.3	1	冷蔵	1~3	111* 生化II	CLIA	1.10~3.30 ng/mL		【高値】肥満症・妊娠・末端肥大症 クッシング症候群・肝疾患 インスリン自己免疫症候群 【低値】糖尿病・飢餓・副腎不全 下垂体機能低下症
5594		24時間 蓄尿 2	6	冷蔵	1~3	111* 生化II		50.0~100.0 μg/day		
2823	抗インスリン抗体 5G360-0000-023-002	血清 0.5	1	冷蔵	5~8	110 免疫	RIA (PEG法)	抗体濃度 125.0未満 nU/mL 結合率 0.4未満 %		【高値】インスリン抵抗性糖尿病 インスリン自己免疫症候群 インスリン注射患者 インスリン自己抗体保有者
8096	抗GAD抗体 (抗グルタミン酸 デカルボキシラーゼ抗体) 5G340-0000-023-023	血清 0.3	1	冷蔵	4~5	134* 生化II	EIA	5.0未満 U/mL		【高値】インスリン依存性糖尿病 (IDDM)(1型糖尿病) 10U/mL以上:1型糖尿病(SPIDDM) 10U/mL以下:SPIDDMの疑い 自己免疫性疾患
5015	ガストリン 4G040-0000-023-002	血清 0.5	1	冷蔵	3~6	104 生化II	RIA (PEG法)	42~200 pg/mL		【高値】Zollinger-Ellison症候群 萎縮性胃炎・胃・十二指腸潰瘍 【低値】胃切除

\* 内分泌学的検査の包括 1回に採取した血液を用いて3項目以上の検査を行った場合  
3~5項目:410点 6・7項目:623点 8項目以上:900点

※C-ペプチド(CPR)を同時に血液及び尿の両方の検体について測定した場合には、血液の場合の所定点数のみを算定する。

※抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)は、すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できる。